

## 7-10 リカバリー対応は真摯に迅速に ～業務完成2年後のミス発覚～

### 1. 立場と仕事

建設コンサルタントの部長として、部署の統括・運営等をしつつ、管理技術者として複数の業務統括にも携わっていた入社23年目頃のことである。

### 2. 遭遇した事態

とある施設の改良実施設計について、管理技術者として業務統括を実施した。業務は問題なく完了して検査も合格し、その後の工事も無事完了していた。しかし、業務完成から2年経過した8月に、「設計図面の標識工が15cmずれている。設計瑕疵である」との連絡があった。別途工事を実施したところ、過年度の標識工がずれていることが判明したとのことであった。急ぎ過去の成果を確認したところ、確かに指摘のとおり、図面にミスがあった。急ぎ、発注者を伺い、現地確認や発注者と今後の対応について協議を実施した。

担当技術者が内容を確認したところ、過去に類似設計を実施しており、類似設計を参考にCADのデータコピー貼り付けをしたところ、貼り付け位置がずれていたという単純なミスであった。

### 3. 対応内容とその結果

発注者との協議の結果、業務成果の再チェックと標識工の書き換え工事を実施することとなった。業務成果の再チェックについては、担当技術者をチェックに専念させて2週間で完了させ、この間に標識工書き換えの施工業者を準備し、チェック完了後速やかに書き換え工に着工できるようにした。連絡当初に現地を確認したところ、施工は業務成果図面からも位置がずれており、当初の施工業者側の不適切な対応も施工ミスの原因の一因ではあったが、まずは迅速に標識工の書き換えを実施することを優先とした。施設近傍では施工業者が見つからず、別の現場で面識のあった施工会社に対応を依頼することとなった。

最初の連絡から迅速に対応し、発注者にも経緯や今後の対応について真摯に説明し、作業工程も綿密に連絡することで、発注者から大きな叱責を受けることはなかった。また、担当技術者には気落ちせず取り組むよう声を掛け、管理技術者・担当技術者共になって対応したことにより、修正設計や工事対応は滞りなく進めることができた。ただし、結果的には文書注意を受け、2年前の業務成果の評定点は遡って10点減点となった。

この件については、再発防止のために全国の関係部署だけではなく他部署にも情報共有を行い、照査の重要性を再認識してもらった。

この経験より、不測の事態が生じた場合でも、事態を的確に把握し、関係者に対してはスピード感を持って迅速かつ真摯な対応を率先して行うことが重要であると認識した。